

2014年1月30日

株式会社ベルコ
代表取締役 齋藤 齋 殿

DOCOMOMO Japan 代表

松隈 洋 (京都工芸繊維大学教授)



大阪新歌舞伎座保存要望書

拝啓 時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

本会は、20世紀の建築遺産の価値を認め、その保存を訴えることを目的のひとつとする、世界54ヶ国が加盟している近代建築保存の非政府国際組織 DOCOMOMO (Documentation and Conservation of buildings, sites and neighborhoods of Modern Movement: モダン・ムーブメントに関わる建物と環境形成の記録調査および保存のための組織) の日本支部です。

今般、御社におかれては、大阪新歌舞伎座の建て替え計画を進めておられると伺っております。

ご承知のとおり、大阪新歌舞伎座は、千日前に位置していた旧大阪歌舞伎座(1932年竣工)にかわるものとして、難波新地の御堂筋に面する敷地に新たに建てられたものです。その建物は、近代日本を代表する建築家・村野藤吾が代表を務めた村野・森建築事務所の設計、株式会社大林組の施工により、1957(昭和32)年11月から工事が開始され、翌年10月に竣工しています。鉄骨・鉄筋コンクリート造地下2階地上5階建てで、約2000名の観客を収容する歌舞伎劇場と、これに附属する食堂・売店と千土地興業本社の事務所から構成される現代的なビルディングでありながら日本の伝統的な建築の要素を積極的に取り入れた独創的な意匠は、竣工当時より人々の注目を集め、さまざまなメディアに取り上げられてきました。竣工から50年を超えた現在においては、建築家・村野藤吾の代表的な作品として、また大阪における南北の基軸となっている御堂筋の景観を構成する重要な要素として、歴史的な価値を有しております。そして、日本における重要な近現代建築の文化遺産として、《docomomo japan 158》(「日本におけるモダン・ムーブメントの建築」の選定建築物)として登録されております。この建物の歴史的価値に関する評価については別紙のとおりです。

本会では、こうした価値をもつ大阪新歌舞伎座の建物について、その保存と活用を要望いたします。

敬具